

## プログラム科目呼吸器外科

### 診療部長

塩野裕之

### 指導医

- 塩野裕之 教授
- 楠本英則 診療講師

### 診療実績

#### 疾患

肺癌など肺悪性腫瘍、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、縦隔良性・悪性腫瘍、重症筋無力症、気胸、胸膜中皮腫、膿胸、肺感染症、胸部外傷  
他、移植以外のすべての呼吸器外科疾患

#### 検査

胸腔鏡生検、縦隔鏡生検、胸腔穿刺・ドレナージ、気管支内視鏡検査、超音波ガイド下生検、CT ガイド下生検、CT、MRI など画像検査

#### 年間全手術数

2016 年／139 件

2017 年／139 件

2018 年／130 件

### 認定施設

日本呼吸器外科認定修練施設(基幹施設)、日本外科学会、日本胸部外科学会、日本肺がん学会認定施設、地域がん診療連携病院

※当科での診療は、外科専門医や呼吸器外科専門医申請の際の診療実績として登録できる。

### 勤務内容

1. 病棟医として入院患者を担当する。手術を含む治療計画を立案する。術前検査、術後管理を行う。
2. 患者ならびにその家族に病状説明、手術説明を行う。手術説明は上級指導医の同席の下に行う。
3. 手術経験は助手や scope operator からはじめ、習熟度に応じ指導医の第1助手(前立ち)のもとに術者を務める。経験症例は外科専門医の必須単位を最大限考慮する。
4. 担当した患者の術後外来診療を行う。外来担当日に受診した初診患者の診療を行う。

- 入院および外来患者の気管支鏡検査、経皮生検などを実施する。検査は、呼吸器外科医として手術に直結した視点で診断する。
- 担当患者の治療方針は症例検討会（毎木曜日）で協議するほか、随時、上級医から指導をうける。また、悪性腫瘍に対する集学的治療や術後補助療法などは、癌診療関連科合同検討会（放射線科、腫瘍内科、呼吸器外科、呼吸器科、病理診断科、緩和ケア科）との合同カンファレンス（毎木曜日）で討議する。

	午前	午後	
月	外来(1)	病棟診療	
火	手術	手術	
水	外来(診療科責任者)	外来(診療科責任者)	
木	外来(2)	病棟診療	症例検討会、部長回診、合同カンファ
金	手術	手術	
土	外来		

## 研修できる事項

開胸術（後側方切開、腋窩前方切開、胸骨正中切開など）、肺切除術（部分切除、肺葉切除、区域切除、全摘術）、それらの胸腔鏡下手術、胸膜肺全摘術、縦隔腫瘍摘出術（開胸、胸腔鏡）、膿胸搔爬術・開窓術、膿胸腔閉鎖術、胸腔鏡下胸膜生検、その他、肺移植以外のすべての呼吸器外科手術

### 1) 外科専門医の取得を目指す場合

指定病院での5年以上の診療経験と、消化器外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科など指定された手術経験が要求されます。当院では、これら外科系診療科をまとめた包括的カリキュラムを持っており、院内でローテートすることにより要件を満たすことができます。手術件数が多いので、手術数では2～3年で要件を満たすことができる見込みです。

### 2) 呼吸器外科専門医を目指す場合

術者50例以上、助手100例以上の手術経験は、約2年で満たすことができる見通しです。万一、当科で経験できなかった希少な手術に関しては、別記関連病院での経験を手配します。

学位取得を希望する場合は、大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科学や交流のある近畿大学医学部外科学教室への進学を支援します。

## 学術研究

自身が興味をもったテーマについて、日本外科学会、呼吸器外科学会、肺癌学会などの全国学術集会、および傘下の地方集会での参加、発表を奨励します。なお参加費、旅費は学内規定範囲内で支給されます。

当科は、大阪大学医学部、大阪府立成人病センター研究所、医薬基盤研究所などと共同研究を行っており、最先端の医学研究への関与が可能です。

## 入局について

現在、当科は、大阪大学呼吸器外科学教室（過去に近畿大学外科学教室も）の人材で運営しています。しかし当科での研修にあたって、これらの大学教室に「入局」する必要はありませんし、将来、義務付けられることもありません。なお、大学院進学や学位取得を希望する場合は入局の支援をします。

## 研修後の進路について

当科はとくに下記関連病院と人事交流していますが、それ以外にも自由に選択できます。当院のような急性期基幹病院での研修に加えて、癌専門施設や、呼吸器外科の根幹をなす旧結核療養施設での研修は、呼吸器外科医としてのキャリア形成に必ず役立つでしょう。大学院での研究や学位取得、基礎研究などを希望する場合は、施設への紹介などの支援をします。

## 診療部長抱負—当科の特徴—

当科は、地域の基幹急性期病院の呼吸器外科として、2009年7月から診療を開始しました。地域や院内からの多大なニーズにより急成長しており、その診療内容は、肺悪性腫瘍、縦隔疾患から外傷、気胸、感染症など急性期疾患まで、きわめて多岐にわたります。

典型的な自然気胸や良性疾患では、すぐに術者として胸腔鏡手術の基礎を習得できます。大きな柱である肺癌に対しては、腫瘍内科、放射線科など関連診療科と密に連携を取って診療にあたり、包括的な癌診療を学べます。手術は、胸腔鏡を用いた低侵襲手術から、他診療科と共同で行うような拡大手術も積極的にこなっています。胸腺腫など胸腺疾患、リンパ腫など他施設では症例数の少ない縦隔疾患についても多くの診療実績があります。

われわれ指導医は、急性期基幹病院、癌センター、呼吸器専門病院（旧結核療養所）での勤務歴を有するだけでなく、大学や海外での基礎研究の経験もあります。科学的な考え方に基づいて、日々の診療や、研究、学会発表も含め幅広く指導できればと考えています。

当病院には、全国さまざまな大学の出身者が集まっています。そのためか大学病院といえども診療科どうしの垣根も低く、いろいろな専門医に気軽に相談でき、誰かが助けてくれます。地域の基幹病院として、症例数は多くかつ多彩で、幅広い研修が約束されています。

また、他の大学病院や、公立自治体病院と大きく異なる点は、日常診療でもっともお世話になる、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師など医療スタッフが、非常に熱心でフットワークが軽いということです。労働環境としても理想的といえるでしょう。

実力ある医師たちやフレンドリーな仲間と、まだできて間もないチームを、ともに盛り上げてくれる熱意ある若手外科医を募集します。

問い合わせは、部長・教授：塩野裕之（[hshiono@med.kindai.ac.jp](mailto:hshiono@med.kindai.ac.jp)）まで遠慮なく連絡ください。

## おもな専門研修連携施設

- 大阪大学医学部附属病院
- 近畿大学医学部附属病院
- 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター(旧近畿中央病院)
- 大阪府立はびきの医療センター
- 国立病院機構刀根山病院
- 大阪府立国際がんセンター
- 大阪警察病院など